

福祉はひとの誕生から死まで、さまざまな場面でひとと寄り添い、ひととともに生きようとする営みです。さらに、喪失の悲しみは、残された者に死によって終わることのない生の意味を問いつづけます。介護、終末期医療、葬送など、人生の局面を通して、われわれ自身のいのちと福祉のあるべき姿をともに考え、ともに語り合しましょう。

「葬儀と墓」は誰のために、何のために ～キリスト教と仏教の立場から考える～

講師 塚本 潤一（頌栄短期大学准教授）
池口 龍法（浄土宗 龍岸寺住職）

近年、葬送儀礼を簡略化しようとする傾向があり、お葬式を行わない「直葬」や、近親者のみで執り行う「家族葬」が増えてきています。時代とともに葬送儀礼の形が変わるのは当然のことですが、経済的理由だけで簡略化しているなら残念なことです。商業ベースで葬送儀礼を考えるのではなく、葬送儀礼の本来のあり方に立ち返り、お葬式やお墓はなんのためにあるのかを考え、キリスト教あるいは仏教の「心」にせまる時間にしたいと思います。

日時 2015年 3月7日（土）13:30～17:30
場所 関西セミナーハウス ※会場への地図は裏面をご覧ください。
参加費 2,000 円、学生 500 円（コーヒー込み）

* 3月4日までに FAX(裏面)、電話、電子メール等でお申し込み下さい。



塚本 潤一 TSUKAMOTO Junichi

1958年兵庫県生まれ。大阪芸術大学芸術学部音楽学科、同志社大学神学部卒業、同大学院前期博士課程修了。日本基督教団北六甲教会、ウェスレー合同メソジスト教会（米国カリフォルニア州）、日本基督教団高崎教会牧師を経て、現在、頌栄保育学院宗教主事および頌栄短期大学准教授。日本基督教団讃美歌委員。日本賛美歌学会会員。『讃美歌21』『こどもさんびか 改訂版』の編纂協力者、『こどもさんびか 改訂版 CD』編曲・監修。『Thuma Mina 世界のさんび』『こどもさんびか 改訂版 ガイド』『教会音楽ガイド』『Thuma Mina 世界のさんび2』共編著、『講座 日本のキリスト教芸術1 音楽』『キリスト教とともに学ぶ音楽』共著。



池口 龍法 IKEGUCHI Ryuhō

1980年兵庫県生まれ。フリースタイルな僧侶たち代表。京都大学、同大学院では、インドおよびチベットの仏教学を研究。大学院中退後、2005年4月より知恩院に奉職し、現在は編集主幹をつとめる。2014年6月より京都市下京区の浄土宗龍岸寺住職。京都新聞（毎月第1火曜日朝刊）に経典を読み解くコラムを連載中。著書に『お寺に行こう!坊主が選んだ「寺」の処方箋』（講談社）がある。

- ◎スケジュール◎
- 13:30～14:30 塚本 潤一氏 講演・発題
 - 14:40～15:40 池口 龍法氏 講演・発題
 - 15:40～16:00 コーヒーブレイク
 - 16:00～17:20 質疑とはなしあい
 - 17:20～17:30 まとめとアンケート記入



2014度 修学院フォーラム

いのち 第2回 2015年1月24日 (土)

「福祉とスピリチュアリティ—社会福祉の根源にあるもの」

講師：木原 活信 (同志社大学社会学部教授)

第3回 2015年2月28日 (土)

「グリーンケアを考える—一人は大切なものを喪失し、なぜ悲しみ嘆くのか」

講師：高木 慶子 (上智大学特任教授、上智大学グリーンケア研究所特任所長)

社 会 「エネルギーを考える」

第3回 2015年1月11日 (日)～12日 (月・祝)

「原発、この避けて通れない課題とどう向かい合うか」

「原発の安全性、経済性、倫理性」

講師：植田 和弘 (京都大学大学院経済学研究科長)

「あらゆる核から解放された世界の実現のために—世界の教会が大切にしている視点とは—」

講師：西原 廉太 (立教大学副総長)

【申込み・問合せ】

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
 関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117(直)

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

所長代行 榎本 栄次

担当 都木かおり



* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

2014年度 修学院フォーラム「福祉」第3回 参加申込書

(フリガナ) 名 前	所 属
住 所 〒	
電話 ()	FAX ()
電子メール :	@
通信欄 :	